

1 学校教育目標	
教育目標……………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標……………	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>本校は、教育目標に「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」掲げ、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来の厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。生徒の授業態度は真面目であり、部活動や学校行事にも熱心に取り組み、節度ある行動や態度をとることができている。一方、おとなしくて積極性に欠ける面も見られる。校内の指導体制は、分掌・年次の連携の下で、基本的生活習慣の確立及び学習習慣の定着を目指し、あいさつ運動や身だしなみ指導、週末課題や自習倶楽部での指導等が全校体制で組織的に行われている。また、キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導も適切に行われ、生徒の進路意識が高まるとともに、卒業後の進路実現にもつながっている。今年度も引き続き進学クラスを設置し、進学指導を推進する。今後とも、全教職員の協働体制により、以下の取組を進めていきたいと考える。</p> <p>①基礎学力の定着を図るとともに、進路目標をしっかりと持ち、夢の実現に向けチャレンジし続ける生徒の育成をめざす。                  ②部活動を通して、心・技・体のバランスのとれた、心身ともに健康で自己指導能力を持つ人間を育成するため、全教職員共通理解の下に組織的に指導にあたる。                  ③本校の教育活動や生徒の様子を積極的に情報発信するとともに、同窓生、PTA、地域の人々等と連携した教育活動の展開をめざす。                  ④教職員が自ら絶えず自己研鑽を積むことによって、授業力、さらには人間性を高めるとともに、その土台となる健康の増進をめざす。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実                  2 部活動の充実                  3 コミュニティ・スクールの推進                  4 教職員の資質向上と健康増進</p> <p>チャレンジ目標……消極的から積極的へ！！ ～流されない心を～ ・校歌を大きな声でしっかり歌おう！ ・掃除を自分から進んで行おう！</p> <p>1年次目標 さわやかな挨拶をかわそう                  2年次目標 自己確立 ～頼れる自分をつくり、将来を考えよう～                  3年次目標 進路実現 ～Where there is a will, there is a way.～</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○読書習慣の定着	・「読書ノート」の活用や「読書指導のLHR」を通して読書習慣を促進する。	4:「読書ノート」及びLHRでの「お薦めの1冊」の提出率が80%以上であった。 3:「読書ノート」及びLHRでの「お薦めの1冊」の提出率が60%以上であった。 2:「読書ノート」及びLHRでの「お薦めの1冊」の提出率が40%程度だった。 1:「読書ノート」及びLHRでの「お薦めの1冊」の提出率が20%未満だった。	4	アンケートによれば、子どもの読書習慣について肯定的に感じている保護者は、全体の3割に満たない程度であるが、「本校の図書館は利用しやすく、読書に対する雰囲気も作られている」という項目に対して肯定的な回答をした生徒は昨年度より7.7ポイント増加している。図書室においてコーナー展示や各種イベントを行ったり、生徒の目につきやすい廊下の掲示板に図書室からのPRを掲示したことが図書室の利用増加につながったと考えられる。読書習慣の定着は難題であるが、1・2年次生を対象に長期休業中に読書感想文や「読書ノート」の課題を出し、感想文は県審査において1編入選した。「読書ノート」の提出率は80%を大きく越え、県コンクールへの応募も、昨年の4人から8人に増えた。8月には「長南地区合同読書会」を本校で実施し、参加して良かったという感想がほとんどであった。また、10月の読書活動LHRでは、各クラス図書委員が司会進行役となり、「ピブリアトル」(おすすめの本を紹介しあい、最も読みたいと思う本、チャンプ本を決めるもの)を実施し、生徒・教員から好評であった。今後新たな取組を試みたい。	人気ランキング、注目本の紹介、図書委員会(生徒会)から発信されるプリントなどの取組は評価できる。読書活動の取組をさらに進めてほしい。 また、「読書ノート」の活用は有効である。 読書はバーチャルからイメージーションへと想像力を向上させる。読書を通して物(人)の見方や捉え方、人生を見出す機会を作してほしい。 PTA活動の保護者宛へのメールは、活動を活発化するために必要なので継続してほしい。 また、「PTAだより」は紙面の内容が優れている。今後、PTA活動を地域との関わりにも広げてほしい。	A
	○保護者との連携活動の強化	・PTA活動や学校行事に関する情報を、案内文書やメール配信等を通じて保護者に細かく伝え、PTA総会をはじめとするPTA行事や学校行事への参加率を上げる。	4:PTA総会・年次集会等の出席率が25%以上であり、PTA活動や学校行事への理解もかなり深まった。 3:PTA総会・年次集会等の出席率が20%以上であり、PTA活動や学校行事への理解もある程度深まった。 2:PTA総会・年次集会等の出席率が15%以上であり、PTA活動や学校行事への理解はあまり深まらなかった。 1:PTA総会・年次集会等の出席率が15%未満であり、PTA活動や学校行事への理解は得られなかった。	3	PTA総会については、昨年度同様保護者宛文書配布時及び総会前日にメール配信を行ったが、今年度の参加率は28.5%であり、昨年度と比較すると1%程度減少した。全日制の年次別に見ると、1年次45.7%、2年次18.7%、3年次26.8%となっており、総会開始前に進路講演会を開催しているにもかかわらず、2・3年次保護者の進路に対する意識の低さがうかがわれる。来年度は、進路講演会や年次集会の内容を吟味し、今年度以上にアピールしていく必要がある。 評議員会への参加者も減少傾向にある中、年1回発行する「PTAだより」では、多くの保護者が関わる企画を立てた。評議員会文化委員の保護者に体育大会取材してもらい、保護者の目線で生徒が行事に取り組む姿を記事にもらったり、全部活動の部長の保護者にコメントをもらったり、PTA関連行事に対する保護者の感想を掲載したりした。来年度も保護者に興味を持ってもらう試みを重ねていきたい。		
教務	○学習習慣の定着	・予習・復習・週末課題に積極的に取り組ませるとともに、繰り返し学習をすることによって、家庭学習の習慣定着・基礎学力の充実を図る。	4:家庭学習の時間が1日平均2時間以上であった。 3:家庭学習の時間が1日平均1時間30分以上であった。 2:家庭学習の時間が1日平均1時間以上であった。 1:家庭学習の時間が1日平均1時間未満であった。(家庭学習の時間を知るためにアンケートを実施する)	2	1学期末・2学期末それぞれ、全校生徒を対象に学習時間アンケートを実施した。また、2学期後半には県教委の学習状況等に関するアンケートを抽出で実施した。定期考査が近づくと、全年次の生徒が一定の学習時間を確保しているようであるが、普段の平日の学習時間は、1時間以下の生徒が多かった。また、考査週間以外の週末毎に、国語・数学・英語の課題を計画的に行っているが、学習習慣が定着しているとはいえない。今後は、自主的な学習へと発展させるために、成果を検証するためのテストなども積極的に実施していく必要があると思われる。	週末課題の計画的な実施は生徒同士の士気を高めており、教員の工夫や熱心な指導に感謝している。小テストも有効に活用し学習習慣の定着を図ってほしい。タブレットの活用も効果的ではないだろうか。 新たに取り組んだカリキュラム・マネジメントを継承し、状況に応じて内容を更新しながら、今後の成果につなげてほしい。	B
	○学習指導の充実	・学習指導の充実のために、積極的に教科会議や研修等を行う。 ・授業の始めに「めあて(目標)」を示し、授業の最後に学習内容の「振り返り」や「まとめ」をするとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた主体的・協動的な活動を充実させる。	4:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が90%以上であった。 3:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が75%から90%であった。 2:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が50%から75%であった。 1:学習指導充実のために研修等に学期に1回以上参加した教職員の割合が50%に満たなかった。	3	11月に実施した授業公開週間を中心に、各教科で設定した研究授業・研究協議、教育実習等を通して本校の生徒の現状理解や授業技術の向上を図った。また、隣接する中学校とも連携し、お互いに授業参観を行うなど交流を深めた。さらに今年度は、やまぐち総合教育支援センターの事業である「社会に開かれた教育課程」を実現するカリキュラム・マネジメント研修モデル事業の実施校として、外部講師を招いて研修を行うなど、新学習指導要領の柱の一つでもある「カリキュラム・マネジメント」について各教科間で情報を共有することができ、授業改善に役立てることができた。		

生徒指導	○基本的生活習慣の確立及び自己肯定感の育成	・身だしなみ指導と朝の登校指導を通し、生徒の自覚した生活習慣の第一歩としてあいさつの奨励を図る。 ・校歌を大きな声で歌うことで自信と誇りを持たせ、自己肯定感の育成を図る。	4:全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が十分に図られた。 3:全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が概ね図られた。 2:生活習慣の確立は図られたが、自己肯定感の育成は十分に図られなかった。 1:生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が、ほとんど図られなかった。	3	基本的生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月1度の身だしなみ指導や毎朝の登校指導、昼休みの校内巡視、定期的実施している校外巡視や通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。全校集会時に校歌を全員で歌い自信と誇りを持たせる取組を行ったが、不十分であった。今後、生徒会の取り組みとして、創意・工夫をしていきたい。 アンケート結果において、生徒・保護者共に「基本的生活習慣や社会のルール、マナーなどが身に付いてきている。」の内容に対して9割が肯定的意見であった。今後も、生徒の心身の変容をしっかり把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図って指導していきたい。	生徒の社会性を育成するため、良き社会人となるため、マナー指導、生活指導は大切である。 月1回の身だしなみ指導、挨拶運動(立ち番)、自転車通学・交通安全指導を通じて、細やかに正しい規律を守る教育が実行されている。 道路の右側を通行する自転車が多く見られる。自転車交通マナーについては、警察と連携して取り組んでほしい。	A
	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会執行部のリーダーシップを育成し、生徒の生徒会活動や各クラスの学校行事(明日葉祭・体育大会・クラスマッチ・生徒総会等)への当事者性を促す。	4:生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られ、活動が活発であった。 3:生徒会を中心に各行事が行われ、多くの生徒は活動に参加した。 2:行事によっては生徒の活動が不十分であった。 1:各行事でクラス及び生徒の活動が積極的ではなかった。	3	生徒会執行部を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。毎月1回、常設委員会を開催し、月間目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。今後も生徒の当事者意識・主体性を高めていくために、各種委員会活動を生徒全員に周知徹底を図っていききたい。 学校行事への積極的な参加については、アンケート結果でも約9割の良い評価を得ている。生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。昨年度から文化祭(明日葉祭)の一般公開を実施したことは大きな成果であり、これまで以上に内容の充実を図っていききたい。	文化祭(明日葉祭)の一般公開を引き続き実施し、さらなる内容の充実を図ってほしい。	
進路指導	○進路実現のための学力養成	・希望進路実現に必要な学力養成のため、課外授業実施・学習合宿実施・自習室開放・自習倶楽部設置等により計画的・系統的な指導を図る。	4:様々な取組により、生徒全員の進路実現につながった。 3:様々な取組により、70%以上の生徒の進路実現につながった。 2:様々な取組により、50%以上の生徒の進路実現につながった。 1:様々な取組は進路実現につながらなかった。	3	自習倶楽部は、部員が3名(昨年11名)であった。2名はこれから受験となる。 夏期、冬期学習会では延べ98人(夏期63人、冬期35人)が参加した。昨年度127人から減少したが、長時間集中し集団で取り組む学習が学力向上の一助となっていると考えられる。 土曜日の自習室の利用については、本年度31回行った。1回平均1.7人であった。参加者を少しでも増やせるよう検討をしていきたい。 日頃から早めの対策が重要であることを意識させ、参加者が増える方向にもっていききたい。	自習室の開放をはじめ進路実現のための環境が整っている。生徒がより高いレベルに挑戦するよう期待する。 公務員模試の実施回数が増えたこと、公務員課外により1年次から準備が進められ、就職内容の実績につながっている。	A
	○進路意識向上のためのキャリア教育の計画的推進	・「総合的な学習の時間」「上級学校見学」等を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4:アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が80%以上であった。 3:アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が60%以上であった。 2:アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が40%以上であった。 1:アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が40%未満であった。	4	生徒アンケートでは、肯定的回答が90.1%、保護者アンケートでは90.3%と概ね高く、探究活動の発表や講話・講演・講義等の実施が生徒の進路意識を高める要因になっているのではないかと考えられる。本校の生徒の進路は多様であり、一人ひとりの要望に応えられるよう、内容を検討していきたい。また、学力相応の進路を選択する傾向があるが、自己の在り方生き方を踏まえたより高い進路を考えさせ、努力するようサポートしていきたい。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任・校内コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー等が連携し、いじめ等で心身のケアが必要な生徒の早期発見・早期対応に努めるとともに、全教職員が情報を共有できる体制を充実させる。	4:心身のケアが必要な生徒への連携した機敏な対応とともに、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3:心身のケアが必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2:心身のケアが必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1:心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3	生徒が元気に安心して学校生活を送れるよう、精神面でのケアが必要な生徒の早期発見を目的に、「不安や悩みについてのアンケート」「いじめに関するアンケート」「教育相談アンケート」「Fit」を年間をととして実施した。また、その結果を集計分析し、スクールカウンセラーの意見を伺いながら、ケアが必要な生徒への早期対応を行った。学校評価アンケートによれば心身の健康のケアについて生徒からの肯定的評価は90.6%を得られ昨年より2.2ポイント増加した。その他にも学校生活でサポートが必要な生徒に対しても学期ごとにケース会議を実施し、生徒支援を行った。	いじめの早期発見・早期対応が大切。いじめの早期発見・早期対応に生徒・保護者向けの「いじめに関するアンケート」が積極的に利用されている。いじめ防止に向けて関係機関との連携も強化してほしい。 校内はいつもきれいで、美化がなされている。	B
	○学習環境の整備	・清掃活動の徹底とゴミの減量化を促進させながら生徒の環境意識の向上を図る。 ・花壇づくりなど校内美化に努め学習環境を整備する。	4:清掃活動その他の美化活動が計画どおりに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3:清掃活動その他の美化活動がほぼ計画どおりに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2:清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1:計画のみにとどまった。	3	生徒が気持ち良く学校生活を送れるように、清掃時間に生徒環境委員の巡視を実施して生徒自らの環境意識を高め、清掃状況の把握と活動の充実を図った。花壇・外庭では担当教員の指導の下、環境委員・掃除当番の生徒が良く活動した。特に花壇については、春秋2回の土作り、苗の植え付け、水やり、除草などを行い、今年も美しい花を咲かせることができた。学校評価アンケートでは、校内の清掃や美化について保護者アンケートより肯定的評価を91%得た。清掃活動については、指示されたことはするが自分から率先して活動できる生徒はまだ少ない。生徒の自主性を高め、一層校内の美化を図りたい。		
業務改善	学校の組織等		4:分掌会議を通じて活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がみられた。 3:分掌会議を通じて活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がかなり期待できる。 2:分掌会議の活動が中途半端に終わり、教育活動の充実があまり期待できない。 1:分掌会議の活動が十分に行われなかった。	3	分掌会議は必要に応じて行われ、教務課では、考査時における証明書提示の廃止、生徒指導課では生徒ボランティア委員の設置、保健環境課ではアンケートの変更など、生徒の実態に合わせた改善を進めた。今後は新学習指導要領を踏まえた改善を進める必要がある。	「総合的な探究の時間」、特別活動など、新学習指導要領の取組を進めてほしい。 コミュニティ・スクールの取組を積極的に進めてほしい。 運動部の部活動の休養日設定の取組が進んだ。今後も働き方改革を推進してほしい。	B
	○各分掌の組織的な運営	・分掌会議を計画的に開催することで業務改善を推進し、教育活動の充実を図る。					
	日常的な業務		4:アンケート2回・教職員研修会1回の実施を通じて、CS導入の環境がかなり整備された。 3:アンケート2回・教職員研修会1回の実施を通じて、CS導入諸規定が概ね整備された。 2:アンケート2回・教職員研修会1回を実施したが、CS導入の環境はあまり整備されなかった。 1:アンケート2回・教職員研修会1回のいずれかが実施できず、CS導入の環境があまり整備されなかった。	3	教職員を対象としたアンケートを4・7・12月の3回実施した。「教育目標を自分なりに具体的に説明できる」「重点目標を意識して教育活動に取り組んでいる」の項目に肯定的に回答した教職員は、4月から12月までの8か月でそれぞれ31.3%から66.7%、46.9%から75.0%に増加し、育てたい生徒像を具体化・言語化する成果が得られた。また、教職員研修会を5月、10月の2回実施した。そのうち5月の研修会には保護者代表も参加し、本校生徒の傾向を認識した上で、育てたい生徒像について共通理解を図ることができた。今後、地域の課題やニーズを授業で取り上げたり教科横断的な取組を進める必要がある。		
	○カリキュラム・マネジメントの推進	・「社会に開かれた教育課程」を実現するカリキュラム・マネジメント研修モデル事業の取組を通してコミュニティ・スクール(以下「CS」という。)導入の環境を整備する。					
	勤務状況		4:時間外業務時間の削減率が平成28年度比30%以上であった。 3:時間外業務時間の削減率が平成28年度比20%以上であった。 2:時間外業務時間の削減率が平成28年度比10%以上であった。 1:時間外業務時間の削減率が平成28年度比10%未満であった。	3	時間外業務時間の削減率は平成28年度に比べ14.0%減(4~12月)であった。部活動週1日以上の日曜日の確保、平日の活動は午後7時までの取り決めに加え、9月から留守番電話の導入により、時間外業務時間が減少した。今後は、県教委の動向を睨みながら改革を進めていきたい。		
	○学校における働き方改革の推進	・教職員の時間外業務時間を削減する。					

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケートによると「本校の図書館は利用しやすく、読書に対する雰囲気も作られている」という項目に対して肯定的な回答をした生徒が7.7ポイント増加した。</li> <li>○ 10月の読書活動LHRで「ビブリオバトル」(おすすめの本を紹介しあい最も読みたいと思う本、チャンプ本を決める)を実施し、生徒・教員から好評だった。</li> <li>○ 「PTAだより」で多くの保護者が関わる企画を立て、内容を充実させることができた。</li> <li>○ 新学習指導要領の柱の一つであるカリキュラム・マネジメントについて、外部講師を招いた研修を行って各教科間で情報を共有し、授業改善に役立てることができた。</li> <li>○ 研究授業・研究協議・教育実習・中学校への授業参観を通して、授業技術の向上を図った。</li> <li>○ 毎月1度の身だしなみ指導、毎朝の登校指導、通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。</li> <li>○ アンケート結果において、生徒・保護者とも「基本的な生活習慣や社会のルール・マナーなどが身に付いてきている」の内容に対して肯定的な回答が90ポイントを超えた。</li> <li>○ 学校行事への積極的参加については、アンケートで90ポイント以上の良い評価が得られた。</li> <li>○ 夏期、冬期学習会において集団で長時間集中して取り組む学習が、学力向上の一助となった。</li> <li>○ 探究活動の発表や講話・講演・講義等の実施により、アンケートで「進路に対する意識が高まった」と回答した生徒・保護者は90ポイント以上であった。</li> <li>○ 公務員模試の実施回数の増加、公務員課外が実績につながった。</li> <li>○ 精神面でケアの必要な生徒の早期発見・早期対応を行った。学習評価アンケートによれば、心身の健康のケアについて肯定的評価は2.2ポイント増加し、90.6ポイントになった。</li> <li>○ いじめの早期発見・早期対応に、生徒・保護者向けの「いじめに関するアンケート」が積極的に利用されている。</li> <li>○ 学校評価アンケートでは、保護者から91ポイントの肯定的評価が得られた。</li> <li>○ 分掌会議を通じて、考査時における証明書提示の廃止、生徒ボランティア委員の設置など、具体的な業務の改善を図った。</li> <li>○ 教員と保護者代表との間で、育てたい生徒像について共通理解を図ることができた。</li> </ul>
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書習慣を定着させる。</li> <li>○ PTA総会への出席率は、文書配布や前日のメール配信にもかかわらず28.5ポイントであった。</li> <li>○ 考査週間以外の家庭学習の時間が1時間以下の生徒が多く、学習習慣が定着しているとは言い難い。</li> <li>○ 校歌を生徒全員で歌い自信と誇りを持たせる取組が不十分であり、創意工夫が必要である。</li> <li>○ 土曜日の自習室の利用は1回平均1.7名であった。</li> <li>○ 清掃活動について、自分から率先して活動できる生徒が少ない。</li> <li>○ 新学習指導要領の実施を踏まえて業務改善を進める必要がある。</li> </ul>

7 次年度への改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書習慣の定着に向けて来年度も新たな取組を行う。</li> <li>○ PTA活動を地域との関わりに広げる。</li> <li>○ PTA総会への保護者参加率の上昇に向け、進路講演会や年次集会の内容を吟味する。</li> <li>○ 自主的な学習を促すためテストを有効に活用する。</li> <li>○ カリキュラム・マネジメントを状況に応じて内容を更新する。</li> <li>○ 生徒指導では、今後も生徒の心身の変容をしっかり把握し、教育相談・スクールカウンセラー・養護教諭等と連携を図って指導する。</li> <li>○ 一般公開した文化祭(明日葉祭)について、これまで以上に内容の充実を図る。</li> <li>○ 全校集会時に校歌を全員で歌い、自信と誇りを持たせる取組を生徒会の取組として創意工夫を行う。</li> <li>○ 進路実現に向けて対策の重要性を意識させ、土曜日の自習室利用の参加者を増やす。</li> <li>○ 生徒の自己の在り方生き方を踏まえたより高い進路を考えさせ、努力するようサポートする。</li> <li>○ いじめ防止に向けて関係機関との連携を強化してほしい。</li> <li>○ 清掃活動について生徒の自主性を高め、一層の校内美化を図る。</li> <li>○ 社会に開かれた教育課程、コミュニティ・スクールの実施のため、地域の課題やニーズの授業での取り上げや、教科横断的な取組を進める。</li> <li>○ 教員の時間外業務時間を削減し、学校における働き方改革を推進する。</li> </ul>
---

A : 優れている - 取組が優れている

B : よい - 取組がよい

C : おおむねよい - 取組がおおむね行われている

D : 要改善 - 取組に改善が必要